

1. 評価報告概要表

作成日平成20年 6月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1090700038
法人名	久建産業株式会社
事業所名	グループホーム・アリス
所在地	群馬県館林市羽附町699 (電話) 0276-72-8685

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年4月3日

【情報提供票より】(20年 3月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	6.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	その他25,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円

(4) 利用者の概要(3月 5日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	67歳	最高	86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新橋病院・みやげ歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

共有空間であるリビングはお互いに顔が見える設計になっており、安全でゆったりと生活している。広々としたリビングに設置された一面のガラス窓からは見事な竹林が見渡せ、皆の心を和ませている。また、食事の時には手作りのランチョンマットを使用したり、色違いののれんを居室入り口に掛けたりと、生活を楽しむ工夫をしている。入居者と一緒に作る食事は献立も豊富で、職員は入居者と共に助け合って暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>代表者と管理者で自己評価を作成している。今後は、評価のねらいを全職員が理解し、職員とともに話しあいながら作成して頂きたい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、区長、民生委員、市町村職員、利用者、利用者家族、事業者で組織し、2ヶ月に1回開催している。ホームからの報告と地域への要望が、会議の主題となっている。会議では、日頃の入居者の暮らしぶりを掲載した広報紙を配布し、今後の取り組みについて意見を聴取してサービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に、苦情受付ポストが設置されている。家族面会時には施設長や職員が声をかけて、意見や不安を聴取するよう努めている。家族からの要望は、職員間で話し合い運営に活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の公民館で開催される生け花、絵画、陶器等の作品展に、入居者と共に観賞したり、小学校や地域の運動会に、入居者の見物席を確保して頂き、参加している。社会福祉協議会を通して、手品や民謡等のボランティアを招いている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針「私たちは、思いやりと心のこもったケアと愛情を持ち共にふれあい幸せに歩いてゆきます」、「地域、家族、友人との交流を大事にします」等の基本理念を掲げ、地域の中でその人らしい暮らしを支援することを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回、代表者と管理者を含めた全職員で、理念に基づく支援をテーマにして話し合い、理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館で開催される生け花、絵画、陶器等の作品展に、入居者と共に観賞したり、小学校や地域の運動会に、入居者の見物席を確保して頂き、参加している。社会福祉協議会を通して、手品や民謡等のボランティアを招いている。	○	自治会や老人会などの地域活動に参加し、ホームにおける地域での役割を見出して頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設して初めての外部評価であるため、代表者と管理者で自己評価を作成している。	○	評価のねらいを理解し、職員とともに話し合いながら作成して頂きたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区長、民生委員、市職員、利用者、利用者家族、事業者で組織し、2ヶ月に1回開催している。ホームからの報告と地域への要望が、会議の主題となっている。会議では、日頃の入居者の暮らしぶりを掲載した広報紙を配布し、今後の取り組みについて意見を聴取してサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に、特に行き来する機会はない。	○	市担当者に、事業所の考えや実態を伝える機会を作り、共有していくよう取り組んで頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族に入居者毎に作成した写真入りのアリス新聞を送付し、生活状況を知らせている。状態に変化が起きた場合には、家族に電話で伝えている。金銭管理は、預かり金から支出した領収書を送付している。職員の異動は、アリス新聞で紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設長、職員は、家族の面会時に声をかけて、入居者の状態を説明する等、意見や要望を出し易い雰囲気作りに心がけている。家族の困り事や不安等は都度報告し、施設長、職員が把握し、その解決に取り組んでいる。また、苦情受付ポストを、玄関に設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。開設当初より、職員の入・退職が比較的にかかったが、徐々に職員が定着してきている。新入職員は、入居者への声かけを多く持ち、早く親しくなれるように努めている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市の研修会には、職員が交代で参加している。認知症実践者研修会にも参加している。しかし、開設して2年目ということで、現在は一部の職員が参加しているのみなので、今後は全職員が研修を受けられるように検討している。職員は、伝達講習を行ったり、資料を回覧して、職員間の情報共有に努めている。	○	今後、職員の立場や経験等に応じた段階的な外部研修の機会を確保するよう期待したい。また、施設内勉強会の継続的な開催を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、交流のあるグループホームを見学し、職員と話し合っって良いところを、サービス運営に取り入れている。	○	管理者や職員が他の事業所と交流する機会を持ち、ネットワークを広げて、サービス向上に努めて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院を経て入居する方が多く、入院中にはホーム長が本人と家族に面会し、退院後は事業所に遊びに来てもらいながら一緒に過ごし、納得した上で入居できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「思いやりと心のかもったケアと愛情を持ち、共にふれあい幸せに歩いてゆきます」の理念の下、本人の力に応じて支援し、時には職員が教えられたりと、お互いに協働しながら和やかに生活できるように努めている。食事作りでは、女性入居者の活躍の場となっており、職員と共に楽しみながら行っている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の言葉や表情から気持ちの把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族から情報を得ている。家族の意見を参考にしながら、利用者本位の暮らし方を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人・家族の思いや意見を聴取し、介護計画に反映させている。月1回のカンファレンスでは、計画作成担当者が中心となり、前回カンファレンスの課題の評価を行い、職員や家族の意見を取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態を観察し、本人・家族の要望を取り入れて介護計画を作成している。状態が変化した場合には、家族と話し合って計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族面会時の急な外出や外泊に、対応している。また、家族の宿泊にも対応することができる。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じて、入居前のかかりつけ医を継続することもできる。定期受診や急な状態の変化に対応し、協力病院・医院、歯科医院への通院に同行している。受診した結果は、その都度電話で家族に詳細に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が多くなった場合は、グループホームでは看不られることを契約時に入居者や家族等に伝えている。	○	入居者や家族等が安心してサービスを利用できるように、日常の健康管理や急変時に対応できるように職員で話し合い、今後、本人や家族と状況の変化のたびに繰り返し話し合い対応の方針を更に共有されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やケアカンファレンスの際に、管理者を中心にプライバシー保護について検討・確認し、職員の意識向上を図っている。トイレや入浴の際には特に注意し、目立たないトイレ誘導やリハビリパンツの交換等を行い、プライドを損ねることのない対応に気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課は決まっているが、それを強制することせず、それぞれの希望で散歩や昼寝、共有空間でのくつろぎや職員との会話、洗濯物たたみ等の手伝いを自然に行なえる様に支援している。本人と2人での会話の際に、どのように過ごしたいかを聞きだし、それに沿って支援するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員は、色とりどりの手作りのランチョンマットを使用して、毎食会話をしながら一緒に食事を楽しんでいる。準備や後片付けもそれぞれの能力に合わせて行えるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3回を予定しているが、希望があれば毎日でも可能である。また、拒否があった場合には、気分転換を図りながら対応し、入浴を強制していない。ゆったりとした個浴を、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	パッチワークやぬり絵、畑仕事や花植え等、得意な活動を支援している。本人ができそうなことを、職員と一緒にに行い、楽しみ事を持てるよう場面づくりをしている。また、本人が得意なことを他の人に教えることで、張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩だけでなく、定期的買い物や花見などに出かけている。入居者の誕生日に合わせて花を買いに行ったり等、入居者の希望を取り入れて外出先を選定し、毎月2回の外出企画書を作成し、実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入りはチャイムで知らせる仕組みになっており、日中は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器点検、災害時対応マニュアル、緊急時の役割分担ができています。	○	入居者が避難できる方法を身につけるよう、消防署の指導の下に、定期的な消火・避難訓練を行って頂きたい。また、万一の時には地域住民の協力が得られる様な体制づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を、提供している。食事、水分の摂取量、摂取状況を、毎日チェック表に記録し、職員で情報を共有している。体調不良で十分食事がとれない場合は、キザミ食、おかゆ等食事の形態を変えて摂取できるよう支援している。また、入浴後には水分を補給するよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は断熱に優れている。職員は、室温や換気を管理している。共有空間は、広く明るい。居間の大きな窓からは、見事な竹林が見え季節感を感じる。居間には畳スペースもあり、また、各居室の入口には色違いののれんが掛けられ、生活感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドとタンスが設置されており、それ以外は本人の使い慣れた家具や布団、ハンガーや花瓶、家族の写真等が家から持ち込まれ、居心地よく過ごせるように配慮されている。		